

## 学位論文要旨

学位論文題目： 中国における地域観光の連携モデルに関する研究  
—影響要因指標体系の実証分析によるモデルの選定—

申請者氏名：王小偉

本研究の目的は、影響要因指標体系の実証分析による地域観光の連携モデルの選定を試みることである。本論文における地域観光の連携とは、地域範囲内の異なる地域における観光経済の主体が、一定の協議や契約を通して、観光資源の整合や再分配により、最大の経済利益、社会利益と生態利益を得るための観光経済活動を指す。論文は5章からなっている。

序章部分では、研究の目的、背景、意義及び研究方法について述べ、研究の構成図を作って、先行研究のレビューを通し本研究の問題を提起した。中国経済の発展につれて、観光産業の発展もどんどん強くなっている。各地域間における観光産業の競争は厳しくなりつつある。単なる競争は短期間中利益を得られるが、長い目で見れば、お互いに連携することは不可欠である。この点を基づき、多くの地域は地域観光の連携について模索し始めた。地域観光の連携モデルについて、多様な研究の角度によって得られた結果は様々である。現状から言うと、多くの研究は構想、実行性、意義、分類などにどまり、具体的な深い研究はまだ少ない。本論文は河南省を事例とし、地域観光の連携に関する影響要因指標体系を構築し、影響要因の実証分析を通して連携モデルの選定を試みた。科学的なモデルの選定は連携の盲目性を克服でき、政府主導の連携モデルにおける類似性の問題もある程度解決でき、地域観光の連携の健康的な発展を促進できる。観光に関する研究は多学科、交差学科及び学科間の研究を特徴としているが、本論文は事例研究法、三角定位法、アンケート調査法を使って研究を進めた。

第2章は地域観光連携の影響要因指標体系の構築である。地域観光の発展に影響する要因はいろいろあるが、例えば、観光資源、観光荷重力、観光吸引力、観光市場、地域文化などがある。このような要素が揃えば、地域観光の発展を促進できるばかりではなく、地域観光の連携にも役に立つ。そこからみれば、地域観光の連携に対し、完全かつ最適化の観光システムが必要となる。この観光システムは地域観光の連携に影響する基本要因、核心要因、駆動力要因、協力要因、関連要因及び機会要因を含む。本章はダイヤモンドモデルに基づき、デルファイ法を加えて、地域観光連携の影響要因指標体系を構築した。

第3章は地域観光連携の影響要因に関する実証分析である。本章では、河南省を例として地域観光連携の影響要因に関する実証分析を行い、科学的な連携モデルの選定を試みた。まず、河南省の概況及び観光産業の現状について分析した。そして、影響要因指標体系に基づき、主に観光資源、観光業の発展レベル、観光荷重力、観光吸引力、観光市場の面から実証分析を行った。

第4章は地域観光の連携モデルの選定である。この章では、第3章の実証分析により、河南省における地域観光の連携モデルを選定した。つまり、四大古都地域を中心とし、核心-辺縁モデルを構築することである。そして、歴史文化、経済、交通地理の面から四大古都地域の現状の分析を通して、連携モデルの選定結果にもう1つの根拠を与えた。

第5章はまとめと創新点である。この章では、論文の全体をまとめて結論を出しながら、本論文の創新点を述べた。更に、本研究の展望と今後の課題について述べて終わりにした。

## 学位論文審査の概要と結果

報告番号	東アジア博 甲 第 118号	氏 名	王小偉
論文題目	中国における地域観光の連携モデルに関する研究 —影響要因指標体系の実証分析によるモデルの選定—		
<b>(論文審査概要)</b>			
<p>本論文は中国における地域観光の連携モデルに関する先行研究を渉猟し、地域観光の連携モデルに関する議論を整理した上で、連携モデルの選定を客観的・総合的に行うための影響要因指標体系を構築し、河南省を例として連携モデルの選定を試みるものである。</p>			
<p><b>I 序章</b></p> <p>観光に関する連携モデルの研究について、研究目的や方法などを述べた上で、先行研究のレビューを行っている。本論文では先行研究における連携モデルを連携の形成プロセスに着目して分類したものの、観光資源の角度から分類したもの、政府と企業（団体）の関係から分類したものなどと整理した上で、連携の形成プロセスや観光資源の観点による研究は連携の構想や現実の事例分析に止まるものであり、政府推進か企業（市場）推進かについては、現在の中国の政治体制下では考察の余地は小さいと結論づけている。一方で、空間構成に着目したモデルでは、地域観光の発展を「点」から「線」へ、「点—線」から「面」を構成するプロセスと捉え、地域観光の連携モデルに一定の階層性を導入したのものとなっている。</p>			
<p><b>II 地域観光連携の影響要因指標体系の構築</b></p> <p>本論文では、このような階層性を持つ空間構成に基づく連携モデルと地域の現状を対応させる影響要因指標体系の構築を以下のように試みている。まず、指標の構築方法として、マイケル・ポーターのダイヤモンド・モデルに基づいて指標を体系化し、その妥当性を専門家にアンケートに拠って尋ね、アンケート結果をデルファイ法に拠って客観的に整理する。具体的には、基本要因に対応した要因因子を中国の観光関係の統計・研究資料から 101 個選定して要因の重要性や連携モデルとの関連性などを総合的に判断して 60 個の因子に集約する。その 60 の因子を基に、観光関連の研究者・実務家 48 名にアンケートに拠って、その妥当性や補充因子などの回答を求め、合計で 98 個の要因因子を得る。最後に得られた 98 の要因因子をキーワードとして学術文献での注目度を整理し、地域観光の連携モデルとの関連性の強さや重複や細分化の程度の調整などにより 56 の要因因子を決定した。</p>			
<p><b>III 影響要因指標体系による実証分析 —河南省を事例として</b></p> <p>このように構築された影響要因指標体系は定量的な指標と定性的な指標を含む総合的なものであり、定量的指標については具体的な数値計算をする必要がある。本論文では、河南省を事例として、入手可能な統計指標を組み合わせることで具体的な定量分析の手法を提案している。統計学的には改善の必要のある指標もみられるものの、影響要因指標体系の構築に止まらず、可能な範囲での定量的分析を行った上で、実際に地域観光の連携モデルの選定を試みた点は十分に評価に値するものである。</p>			
<p><b>IV 地域観光の連携モデルの選定</b></p> <p>本論文では、連携モデルの選定において、定性的分析の必要性も「総合分析」の中で示している。現状の連携モデルは、低次の「点—軸発展モデル」にとどまっているが、連携モデルから南陽をはずし、8 大古都の一つである安陽を加えることにより連携範囲が河南省の半分ほどの地域を含む大きな地域となるだけでなく、四大古都を中心とし、古都文化を媒介に、核心観光地域を構築すれば、観光イメージが鮮明で、発展方向を定めやすいという重大なメリットがあるとしている。</p>			
<p><b>V まとめと創原点</b></p> <p>本論文は先行研究をベースとして地域観光の連携モデルを具体的に提示し、その連携モデルと地域の現状を対応させる影響要因指標体系の構築を行い、河南省を事例として、地域観光の連携モデルの選定で必要となる議論を明示しながら連携モデルの選定を試みている。河南省の事例では、核心—辺縁モデルの妥当性を指標体系に基づき考察し、今後の課題について整理している。</p>			

1. 創造性

地域観光の連携モデルに関する中国の先行研究を体系的に整理して、総合的で実証可能な指標体系を構築するという試みは新規性のある野心的なものであり、河南省を事例とすることで、実際の観光関連の統計について不足や困難を明らかにしており、創造性の点においては（全体として）達成できている。

2. 論理性

先行研究に基づき、空間的な発展過程を踏まえた連携モデルを想定し、総合的な指標体系について、定量的な分析や定性的な分析を総合的に考察して適切な連携モデルの選定を試みており、論理性の点においては（全体として）達成できている。

3. 厳格性

先行研究や定量的分析における統計資料の参照などについて適切に行われており、分析結果から導かれる結論と限界についても十分に議論されており、厳密性の点においては（全体として）達成できている。

4. 発展性

地域観光の連携モデルの議論は概念的であったり事例紹介のようなものに止まる傾向があるが、本論文では、連携モデルを選定するための総合的な指標体系を構築し、現在利用可能な情報を出来るだけ取り込みながら具体的な事例について考察しており、発展性の点において優れたものとなっている。

以上のことから、審査委員会は審査委員の合議によって全体の評価が「達成できている。」と判断し、論文審査結果を「合」とする。

論文審査結果

合 ·  否

審査委員

(氏名) 李海峰

(氏名) 朝水泉彦

(氏名) 塚田 広人

(氏名) 成島 敬

(氏名) 野村 淳一